

<国語科>

「読むこと」領域において、一人一人の「考えを形成する力」を高める国語科指導の在り方

岐阜市立長良中学校 教諭 肥田 雅史

概要

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのように未来をきり拓いていくかが問われている今日、国語科においては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべての領域で、自分の考えを形成する学習過程が重視され、「考えの形成」に関する指導事項が学習指導要領に位置付けられた。これからの社会を生き抜いていく中で、「考えを形成する力」こそ必要不可欠だと考えた。また、本校の課題として、「学びが生活や社会とつながらないこと」が挙げられる。この課題を払拭するためには、「考えを形成する力」を育成することが重要だと考え、実践を行った。①単元の導入を工夫し、単元を構造化することで、子供たちが必然をもって学べるようにした。また、「考えの形成」を重点指導事項とする授業の工夫として、②「ひびきあい」を組織することや個に応じた指導を行うことで力が付くと考えた。さらに、③教科横断的な視点から、他教科とのつながりをもたせることで、より力が高まると考え、実践を行った。

1 主題設定の理由

(1) 国語科の今日的課題から

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説に、改定の経緯として次のように記述されている。

現代の社会情勢として、人工知能（AI）の飛躍的な進化により、雇用の在り方や学校において獲得する知識の意味にも大きな変化をもたらすのではないかと予測も示されている。このような時代にあって、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている。

このような中で、国語科としては、「考えを形成する力」を育成することが、子供たちがどんな社会であっても、自分で道をきり拓く力につながると考えた。また、中央教育審議会による「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年）において、

- 文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成を生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。
- 自分の思いや考えを形成し深めることが、国語科における重要な学びである。

と記述されている。実際に新指導要領では、「考えの形成」に関する指導事項が全領域に組み込まれた。こ

のような情勢を受けて、「考えを形成する力」を身に付けさせることが、子供たちが将来をよりよく生きるために必要不可欠だと考えた。

(2) 子供の実態から

本実践は、本校3年2組38名の学級で行った。

最初に子供たちは国語の学習をどのように思っているかを「令和3年度全国学力・学習状況調査（質問紙）」から分析した。

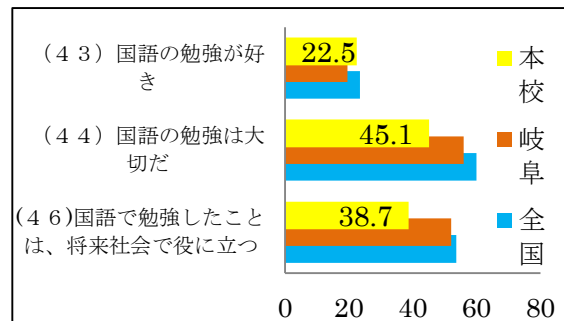


図1 令和3年度全国学力学習状況調査質問紙より

質問（43）から「国語の勉強は好き」と答えた子供は22.5%と、全国の平均は上回ってはいるが、高い数字とは言えない。また、質問（44）から「国語の勉強は大切だ」と考えている子供は、45.1%で、全国の平均より約15ポイントも低い。さらに、質問（46）から「国語の授業は、将来社会に出たときに役立つ」と考えている子供は38.7%で、こちらも全国の平均より約15ポイントも低い。これらの結果から、国語の勉強自体を嫌っているわけではないが、学ぶ目的がわかっていなかったり、社会でどう生かせるのかを理解していなかったりしているということがわかった。また、「三四 文章に表れているものの方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」問題に関わって、正答率は全国と比べて約9ポイント高かったにも関わ

らず、無解答率も全国を上回っていた。ここから、「①自分の考えをもてる子供とそうでない子供の差が大きい。②自分の考えをもてない子供がとても多い。」ことがわかった。さらに、子供のノートからも、ある2年生時末の単位時間の振り返りから次のような結果がわかった。

- ・学んだことと自分の考えを体験や知識とつなげて書いている。(15%)
- ・学んだことと自分の考えを自分の生活とつなげて書いている。(35%)
- ・学んだことだけ書いている。(41%)
- ・何も書けていない。(9%)

この結果から、「読むこと」領域において、読み取ったことを体験や知識とつなげて考えたり、自分の生活とつなげて考えたりすることには弱さがあるとわかった。

このように、国語科の今日的課題と子供の実態から、これからの社会を担う子供たちに「考えを形成する力」を付けることこそ大切だと考え、研究主題を以下のように設定した。

「『読むこと』領域において、一人一人の『考えを形成する力』を高める国語科指導の在り方

2 研究仮説

- (1) 単元を構造化し、学ぶ必然をもたせる単元を貫く課題を設定することで「考えを形成する力」を高めることができる。
- (2) 「考えの形成」を重点指導事項にした授業で、一人一人にあった手だてを講じ、「ひびきあい」(「ひびきあい」については後述)を組織することで、「考えを形成する力」を高めることができる。
- (3) 国語で学んだことを教科横断的に指導していくことで、「考えを形成する力」を高めることができる。

3 研究内容

- (1) 単元指導計画の工夫
 - ①学ぶ必然がもてる単元を貫く課題の設定
 - ②単元の構造化
- (2) 授業の工夫
 - ①「ひびきあい」の組織
 - ②個に応じた指導の手立て
- (3) 教科横断的な指導

4 研究実践

本研究では、3年生の実践を基に述べる。

(1) 単元指導計画の工夫

①学ぶ必然がもてる単元を貫く課題の設定

「国語の勉強は必要だ」「国語を勉強するとこんなことに役立つんだ」と実感させるためには、教科書に載っているから読む、勉強する、という意識ではなく、読む必然、勉強する必然をもたせることが必要だ。そのために、導入で資料を提示した。

「握手」の導入の時間には「孤立社会」の新聞記事を配布した(資料1)。「今社会では『孤立社会』という問題が起きている。これは君たちと無関係の話ではない。このような問題を解決するにはどうすればよいのだろう。」と子供に問い、考えさせる。そして考えを発表させた後に、「この問題の答えとなりそうな話が教科書に載っているから読んでみよう」と投げかけ、読む必然をもたせた。そして、単元を貫く課題を下記のように設定した。

「孤立社会」の中で、私たちは何を大切にして生きていくとよいのだろう。

また「作られた『物語』を超えて」では、単元の導入で「情報化社会」と「多文化社会」について書かれた記事を配布した(資料2)。

子供たちも知っている SNS の問題やオリンピックの話題を提示し、子供たちが興味をもちやすいものにする事で、さらに学ぶ必然をもたせた。特に SNS などの情報化社会の問題は、社会に出てからでなく、今から必要となってくる問題なので、自分の生活とつなげながら考えることで理解を深めることができる。そこで単元を貫く課題を下記のように設定した。

情報化社会・多文化社会の中でどう生きていけばよいのだろう。

これらの結果、単元の導入の時間の振り返りには、下記のようなものがあつた。

- ・引きこもりなどの『孤立社会』は自分たちとも関係が深い話題。その解決策をルロイ修道士の生き方から見つけていきたい。(握手)
- ・自分も SNS で間違った情報を流されたことがある。情報化社会の問題は今こそ学ぶべきこと。山際さんの考えを読み取り、答えを探っていきたい。(作られた「物語」を超えて)

このように、全ての単元で社会問題と国語の教材をつなげて導入を行うことで、学ぶ必然や社会とつなげて考える必然をもたせることができた。

また、「単元の導入で、社会問題をテーマにした資料を読むことについてどう思うか」というアンケートに対しては下記のような回答があつた。

- ・長い文章を読むことは苦手だったが、「答えを見つける」という感覚で読めるので楽しい。
- ・国語の文章が社会問題解決のヒントになっているとは考えたこともなかった。国語で学んだことが、様々な生き方のヒントになっていると知り、より一層国語が学びたくなった。
- ・今まで社会問題について考えたことがなかったので、それについて考えるきっかけにもなって良かった。

子供たちは、単元の導入で、社会問題をテーマにした資料を読むことを通して、教科書を目的的に読んだり、問題解決的に読んだりしている。そして、学ぶ必然をもち、自然に社会と国語をつなげて考える力が付いていることがわかった。

②単元の構造化

3年生「故郷」での実践を基に述べる。

子供たちに国語の力を付けさせるためには、その単元を通してどんな力を付けるのか、を明確にする必要がある。そして、その力を付けるためにはどのように単元を仕組みればよいかを考えることが大切である。そこで資料3のような単元構造図を作成した。一単位時間ごとのねらいを明確にし、見通しをもって指導していく。「故郷」では「文章に描かれた社会と人の生き方から、人間・社会の在り方について自分の考えをもつ力」を「単元のつけたい力」として設定した。

○第1・2時 必然ある課題の設定

ただ教科書に載っているから読むのではなく、なぜそれを読むのか、学ぶのか、という学ぶ目的・必然をもたせようとした。本単元では西日本豪雨の資料を提示した(資料4)。また、現地に行って取材してきたものをプレゼンにして見せ、被災者はどんな思いか、どのような状況かを伝えた。そして、子供たちに向けて「このような望まぬ状況に置かれたとき、その中でどう生きていけばよいか」と問うた。また「そのヒントが『故郷』という作品の中にあるから、読んでみよう。また、ヒントは『故郷』だけでなく、実はこれまで習った『握手』や『蝉の声』の中にもある。それらの作品で学んだことも生かしながら考えていこう。」と話し、考える必然をもたせた。そして、単元を貫く課題を下記のように設定した。

望まぬ状況に置かれたとき、その中でどう生きていけばよいのだろう。

○第3・4時 前半部分の内容解釈

「故郷」に書かれている前半の内容を解釈する時間。この内容解釈が「考えの形成」の力を高めるにあたって、考えの土台となる。本文の内容を確実に

理解していないと、自分の意見をもつことはできなかったり、考えが的外れになったりする。

○第5時 考えの形成①

第3・4時で行った内容に関わって、自分の意見をもつ。必ずどこの部分からそう考えたかを明らかにさせる。また、自分の意見の根拠を社会とつなげて考えさせるようにする。

○第6時 後半部分の内容解釈

話の主題を解釈する。時代背景も含めて考えさせることで、より理解を深められるようにする。

○第7時 考えの形成②

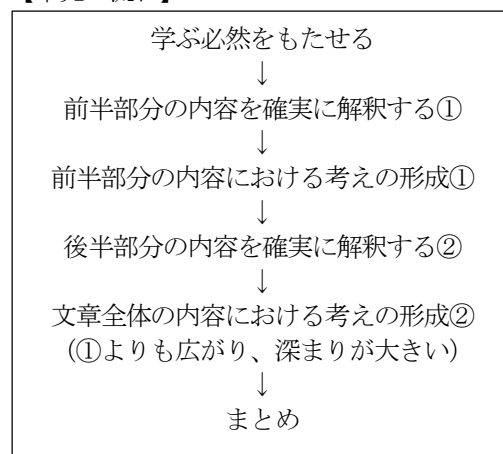
単元を貫く課題について自分の意見をもち、交流する。「考えの形成①」よりもより考えを広げたり深めたりする。

○第8時 単元のまとめ

本単元で学んだことを作文にまとめる。条件として、次の3つを挙げる。

- ① 考えの基となった本文や内容を書く。
- ② 単元を貫く課題に対する最終的な自分の考えを書く。
- ③ 西日本豪雨以外の社会的事例も具体例として挙げる。

【単元の流れ】



このように、学ぶ必然をもたせたうえで、「内容解釈」とそれに対する「考えの形成」を螺旋的・反復的に学ぶことによって、力を高めていく。また、単元の終わりには、「単元を貫く課題」とは別の社会的事象とも関わらせてまとめを書かせる。数学という発展問題的な役割で、単元で学んだことを生かして考えをもたせることで、「考えを形成する力」を確かなものにする事ができる。

(2) 授業の工夫

①「ひびきあい」の組織

「考えの形成」にかかわる学習では、子供が元々も

っている考えを述べるだけでは、学びが深まったとはいえない。さまざまな「見方・考え方」を互いに発揮し合うことで、考えを広げたり、深めたりすることができる。そのため、授業の中で「ひびきあい」を組織することが、深い学びを生み出す手立ての一つだと考えた(資料5「本時案」参照)。「ひびきあい」とは、斎藤喜博の考えが基となったものである。斎藤喜博は著書「授業入門」の中で下記のように述べている。

授業とは真理や正しさをもった教師と子供が、学級という集団の中で、相互にそれぞれの思考や論理を出し合い、激しく衝突しあっていくものである。また、お互いの論理や思考を否定したり、そのことによって他の世界に移行していったり、拡大していったり、新しいものを発見し、自分の人間全体をその世界に入れていったりするものである。

このような授業を展開することが、深い学びを実現し、「考えを形成する力」を高めることにつながると考えた。そこで、国語科における「ひびきあい」を下記のように定義し、実践を行った。

一人一人が書き手・話し手、あるいは読み手・聞き手の立場から言葉に対峙し、その意図や効果を考えたり、伝え合ったりすることを通して、言葉のもつ魅力(美しさや豊かさ)や効果を実感しながら、「見方・考え方」を広げ深め、「本時のねらい」に到達していく過程。

以下3年生「故郷」の第7時での実践を基に述べる。本時のねらいを下記のように設定した。

西日本豪雨で被災した人の思いを記した資料を題材に、「望まぬ状況に置かれたとき、どう生きていくのか」ということを、これまでに学習した「握手」「蝉の声」で学んだことも踏まえて話し合うことを通して、「故郷」の主題としてとらえた「どんな状況でも諦めず、社会状況を変えるために仲間と協力して動いていくべきだ」という「私」の考え方に対する自分の意見をもつことができる。(C「読むこと」エ 考えの形成・共有)

このねらいを達成するために「ひびきあい」を組織することが有効だと考えた。「ひびきあい」を組織するには、一人一人がどのような「見方・考え方」をもっているのかを事前に把握することが必要である。本時では大きく、「社会を変えようとする生き方(故郷)」「人とのつながりを大切にする生き方(握手)」「個を大切にする生き方(蝉の声)」の3つであると捉え、実態把握を行った。そして、全体交流で、それぞれの「見方・考え方」がうまく絡み合うように意図的指名を行い、出された意見を板書に構造的に位置付けた。

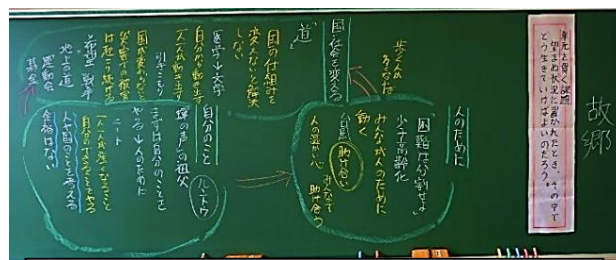


写真1 「故郷」 第7時の板書

そして、「仲間の意見に対してどう思うか」と問い、子供同士で意見をぶつけ合い、考えを深めた。さらに、「社会を変えようとする生き方」「人とのつながりを大切にする生き方」の意見が多数を占めたところで、「家族を失い、家も無くなった。そのような状況で本当にそんな生き方ができるのだろうか。」と考えを深める発問を投げかけた。じっと考えた末、Aが次のように発言をした。

僕は変わらず「社会を変えようとする生き方」が良いと思っている。確かに、辛い状況かもしれない。でも、だからこそ、前を向かないといけないし、一歩を踏み出さないといけない。「故郷」の中で鲁迅は「希望とはもともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上に道はない。」と言っている。誰かが社会や集団を変えようと一歩を踏み出さないとも変わらない。自分が苦しい状況の中だからこそ、鲁迅のように強い意志をもって社会や集団を変えようと一歩を踏み出せる人間になりたい。

この発言を受けて、Bは次のようなまとめを記入した。

私は最初、「握手」のルロイ修道士のように「人とのつながりを大切にする生き方」が大切だと思っていたけれど、Aの「誰かが社会や集団を変えようと一歩を踏み出さないとも何も変わらない」という意見を聞いて、確かに多くの人の幸せを考えた時に、誰かが社会や集団を変えようと、一歩を踏み出さないといけないと思った。でもその根本には、蝉の声の祖父のような強い意志があり、ルロイ修道士のような自分よりも周りを大切にする優しさがあるのだと思う。だから、3つの考えはすべてつながっていると思った。実際、コロナの影響で運動会がやれないかもしれないとなったとき、生徒会が動いて実現することができた。苦しい状況の時こそ、前を向いて、人のためや集団のために力を尽くせる人間になりたい。今のコロナの状況も同じだと思うので、色々制限されて心が折れそうになることもあるけれど、諦めずに生きていきたい。

3つの考えのつながりや共通点に気付き、新たな考えが生まれたことがわかる。そして、西日本豪雨だけ

でなく、新型コロナウイルスの問題ともつなげて考えられている。他にも格差社会や受験に向けての自分の生き方などつなげた記述が多く見られた。ここから「考えを形成する力」の高まりを実感できた。「ひびきあい」を組織することで、自分の考えを広げたり深めたりさせることができた。また、ただ与えられた社会問題とつなげるだけでなく、国語で学んだことを、汎用性をもって様々なことと結び付けて解決する力が育てられていると実感することができた。

②個に応じた指導の手立て

①のような力が全員につかないと意味がない。そこで、一人一人に応じた手立てを講じる必要があると考えた。

まずは、子供たちの実態を把握するために、これまでの国語の学習での振り返りや本単元の導入時の考え、本単元での各単位時間の振り返りなどをまとめた。また、国語の授業だけでなく、学活の様子やその子の目標なども参考にした。生徒Cを例に示す。

<p>生徒Cの場合</p> <p>【学活：個人の目標】 仲間と関わり続け、常に向上心がもてる自分</p> <p>【学活：運動会の振り返りから】 仲間と何かを成し遂げるのは楽しい。</p> <p>【国語：「握手」の振り返りから】 ルロイ修道士のような自分よりも人を優先できる人間になりたい。</p> <p>【国語：「蟬の声」の振り返りから】 和男のように誰かの思いを大切に生きていくのはカッコいい。とても家族思いの人間だ。</p> <p>【国語：「故郷」導入の授業から】 人と助け合っていくことで道ができていくことがわかった。望まぬ状況の中でも、人と助け合って生きていくことが大切だと思う。</p> <p>【国語：「故郷」解釈の時間の振り返りから】 どんな状況であってもヤンお婆さんみたいに、冷たい人にはなりたくない。 レントウから距離を置いた「私」にも責任がある。どんな状況でも人を下に見ることはしないようにしたい。</p> <p>【「考えを形成する力」の実態】 「握手」や「蟬の声」の授業ノートから、自分の生活や体験とつなげて考える力は付いているが、社会とつなげて考える力には弱さが見られる。</p>

このように実態を捉え、Cは本時で「人とのつながりを大切にする」という考え方をするのではないかと予想した。そして、「社会を変えようとする」考え方の視点を与えると共に、社会とつなげて考える力を付けることで考えが広がったり深まったりすると思いき、次の中のピンクのヒントカードを渡した。

<p>ヒントカード</p> <p>人のために働くことこそ大切だと考えたあなたへ… 「なぜそう考えたのか。教科書の本文や内容と照らし合わせて考えてよ。」</p> <p>○教科書の本文や内容の例 ・ 漢字のルロイ修道士が左の人と手をたたき渡されても、日本のため ・ 関子、のルロイ修道士が自分の命よりも子供たちを助けたことを優先して ・ 関子とつなげよう</p> <p>○例 ・ ラグビーのキャプテンがボランティアをしていた ・ ボランティアの原稿さん ・ 高齢化社会</p>	<p>ヒントカード</p> <p>自分のことをしっかりやることこそ大切だと考えたあなたへ… 「教科書の本文や内容の例 ・ 漢字のルロイ修道士が左の人と手をたたき渡されても、日本のため ・ 関子、のルロイ修道士が自分の命よりも子供たちを助けたことを優先して ・ 関子とつなげよう」</p> <p>○例 ・ ニートな自分のことすら自分でできない人はいらぬ</p>
--	---

図 2 ヒントカード (資料6)

さらに、全体交流の際に「社会を変えようとする生き方」についての意見が出た後に、Cに「今の意見についてどう思うか」と聞くことで、考えを深めさせた。

また、考えがなかなかもてない子供にも同じようにヒントカードを渡し、自分の考えをもって全体交流に参加できるようにした。

Cの本時の振り返りには次のように書かれていた。

<p>私は「人とのつながり」が大切だと思う。でも、Dの意見を聞いて、「社会を変える」という考え方も大切だと思った。「強い意志」と「人とのつながり」が「社会を変える」ことにつながると思った。まず私は、人とのつながりを大切にしていきながら、「強い意志」をもって、集団にも意見が言えるような人間になっていきたい。また、このような「強い意志」をもって生きることは、今社会科で学んでいるハンセン病の問題ともつながってくる。さらに、差別の問題やいじめの問題でも「仕方がない」ではなく、自分が一歩を踏み出して声を上げることで、何かが変わるかもしれない。だから、勇気をもって一歩が踏み出せる人間になりたい。</p>

元々もっていた「人とのつながり」という考えに、「社会を変える」という考え方がプラスされ、新たな考えがもてたことがわかる。さらに、読み取ったことを社会とつなげて考える力も付いた。

このように、実態を書き込んだ机列表を作成したり、個に応じたヒントカードを与えたりすることで、考えを広げたり深めたりすることや、社会とつなげて自分の考えをもたせたりすることにつながられた。全体交流だけでは、全員に力が付いたかはわかりにくい。一人で考える時間の机間指導こそ大切で、限られた時間で一人一人に合った的確な助言をするためには、実態把握とそれに合ったヒントカードが有効だとわかった。

(3) 教科横断的な指導

前述のように、単元の工夫や「考えの形成」を重点指導事項とした授業で「考えを形成する力」を高めてきた。しかし、第3学年でいえば週に3時間しか国語の時間はない。それだけで力を付けるには限界がある。中央教育審議会の初等中等教育分科会「4. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策」では次のように記されている。

これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成り立たせていくことが課題となる。そのため、各教科等における学習の充実のもとより、教科間のつながりを捉えた学習を進める観点から、教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える必要がある。

携することで力が高まると考えた。そこで、「教科横断的に活用できる国語科の資質・能力一覧表」を作成し他教科の先生に配布した（資料7）。

教科横断的に活用できる国語科の資質・能力一覧表【3年生】		
単元名	身に付く力	実践例
挨拶一原爆の写真によって【読むこと】	・比喩や象徴的な表現に注目し、文脈の中での意味を捉える力 ・詩に用いられている表現の効果を評価し、現代社会の状況と重ね合わせながら考えをもつ力	【家庭科】「持続可能な社会」を実現するために、現代社会と重ね合わせて考えをもつ。
故郷【読むこと】	・人の生き方や社会との関わり方を考えるうえでの読書の意義を理解する力 ・小説を批判的に読み、時代や社会の中で生きる人間について考える力 ・どんな状況でも希望をもち、社会を変えようと歩み出すことが大切だと考える力	【社会】人権の学習の際、社会や法律を変えするために一歩を踏み出すことが大切だという考えをもつ。 【学活】人の生き方について社会との関わりを考えながら自分の意見をもつ。
人工知能との未来 人間と人工知能と創造性【読むこと】	・情報の信頼性を確かめながら読む力 ・文章を批判的に読み、これからの社会の在り方について自分の意見をもつ力	【技術】情報についての知識を理解する。 【社会】歴史上の人物の行動や思いについて批判的に考え、自分の意見をもつ。
多角的に分析して書く【書くこと】	・判断や評価の根拠を明確にし、表現の仕方を工夫する力 ・意見や根拠をどのような順序で並べるか考え、説得力のある論理の展開を工夫する力	【体育】技術を身に付けるために、多角的な視点から分析する。 【音楽・美術】なぜそう考えたのかの根拠を明確にして仲間へ伝える。

図 3 教科横断的に活用できる国語科の資質・能力一覧表の抜粋

これは光村の教科書に載っている全ての学年の全ての単元において、どんな資質・能力を身に付けるかを明らかにしたものである。また、その資質・能力が他教科でどのように発揮することができるかの具体例を記した。これを全教科の先生が周知することで、国語で付けた力を他教科でも発揮することができ、あらゆる場面で活用していくことで力が高まると考えた。以下に3年生の「考えを形成」の内容である「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて自分の意見をもつ力」が発揮された場面について記す。

○教科：社会 ○単元：「人権と共生社会」
○国語科とのつながり

社会科では「人権を訴え、法律を変えるために行動し続けた人を紹介し、民主主義についての理解を深める」という授業をしていた。それと「故郷」の授業をコラボして、主題「どんな状況でも希望をもち、社会を変えようと歩み出すことが大切だ」をより深く理解させた。ノートの記述があった。

○力を高めるための手立て

社会科で『故郷』の魯迅がやろうとしたことと似たようなことだね」と説明を補足する。

国語科でも、「社会の人権で法律を変えようとした人と同じだね」と、具体例の一つとして挙げる。

○子供の姿

社会の授業で「国語で学んだこととつながっていて～」や「社会や国語で学んでいることは社会に出てもすぐに役立つものだ」という発言やノートの記述があった。

○教科：理科 ○単元：「化学変化とイオン」

○国語科とのつながり

社会とつなげて考えること

○力を高めるために手立て

国語で「社会とつなげて考える」ことを学びましたね。理科で今回学んだことはどう社会とつながりますか」と問う。

○子供の姿

「リチウムイオン電池の長所は長続きすることで、短所は充電の仕方で使用期限が短くなることです。スマートフォンを充電しながら使ったり、一晩中充電し続けたりしていたので、8割充電にしたいです。また、これらはSDGs 1 2番の『つくる責任つかう責任』にもつながると思うので、考えて使っていきたい。」というノートのまとめがあった。

国語で身に付けた「社会とつなげて考える」という力を社会や理科でも発揮し、力を高めていることがわかる。また、他にも「生徒会選挙」の演説でも次のような姿があった。

私は給食部長に立候補した〇〇です。私の公約の一つに「残菜0」があります。私在家で料理を作った際、弟が食べきれず残しました。その時私はとても悲しい気持ちになりました。きっと、調理員さんも同じ気持ちだと思います。また、社会的にもフードロスが問題になっています。世の中には食べ物が食べたくても食べられない人がいます。よりよい社会をつかっていくためにも、食べ物に感謝をし、残さず食べることがとても大切だと思います。

このように、2年生の指導事項である「知識や経験」とつなげて話したり、「公約の実現は、社会でも求められていることだ」と、人間、社会、自然などつなげて話したりする姿が見られた。

国語の授業だけでなく、様々な授業や場面を活用し、国語で身に付けた力を発揮することで、より力を高めることができた。そして、子供たちも「学んだことが生かしている」「学んでいることは教科関係なくつながっている」と実感することができた。

5 成果（○）と課題（●）

下記は本校3年2組38名の実践後のアンケートの結果である。

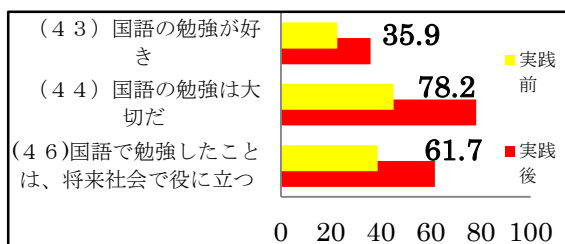


図4 国語に関わるアンケート（項目は「令和3年度全国学力学習状況調査質問紙」と同じ）

- アンケートの結果から、「国語の勉強は大切だ」と考える子供が実践前と比べて約33ポイントも上がった。「国語で学んだことは、将来役に立つ」と考える子供も、実践前と比べて約23ポイントも上がった。今回の実践により、必然をもって学ぶ生徒が増えたことがわかる。
- 単元の導入で社会に関わる資料を提示したことで、必然をもって学び、文章を基に人間、社会、自然とつなげて考える「考えを形成する力」が高まった。
- 授業で子供の実態把握を基に、「ひびきあい」を組織することで、より深い学びを実現することができた。
- 他教科とのつながりを意識して授業を展開することで、学んだことを活用する場ができ、力を高めることにつながった。
- カリキュラムマネジメントをさらに進め、もっと多くの場面で身に付けた力が発揮できるようにしていく。
- 「読むこと」領域だけでなく、「話すこと・聞くこと」領域、「書くこと」領域の「考えの形成」についても研究していく。

◇ 引用・参考文献

- ・『授業入門（人と教育入門）』斎藤喜博（平成19年）
- ・『授業（人と教育入門）』斎藤喜博（平成19年）
- ・初等中等教育分科会「4. 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策」中央教育審議会（平成27年）
- ・『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』中央教育審議会（平成28年）
- ・『中学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省（平成30年）